

えぼ丸通信 No.16



えぼし麻呂

「えぼ丸通信」の名前は、茅ヶ崎市と寒川町それぞれのオリジナルキャラクターである「えぼし麻呂」と「げんき丸」の名前の一部を頂き、合体したもので

発行元：茅ヶ崎市保健所
地域保健課在宅ケア相談窓口
〒253-8660
茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目8-7
TEL 0467-38-3319（直）



げんき丸

第24回多職種連携研修会（オンライン）を開催

茅ヶ崎市と寒川町では、平成26年度より在宅医療介護に関する専門職や行政職が集まり、地域で医療や介護を受ける方々への支援を充実させるために研修会を実施しています。

令和4年1月27日(木)に実施した研修会では、『コロナ禍で変わったこと、工夫したこと』と題して、第1部パネルディスカッション、第2部オンラインでのグループワークを実施しました。

【第1部】座長 茅ヶ崎医師会 菅原一朗 医師（オンライン参加者67名）

パネラー

- ① 茅ヶ崎医師会 大木教久 医師
- ② 茅ヶ崎歯科医師会 内間恭洋 歯科医師
- ③ 茅ヶ崎寒川薬剤師会 真壁聰 薬剤師
- ④ 訪問看護ステーションにじいろ 稚田みどり 看護師
- ⑤ 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 平本哲也 主任ケアマネジャー
- ⑥ 寒川地域包括支援センター 木村友子 主任ケアマネジャー
- ⑦ 茅ヶ崎市立病院 患者支援センター 高橋有美 看護師

【第2部】グループワーク（オンライン参加者27名）



コロナ禍で、利用者の方や関係者に直接会えない中で、顔
が見えるようにリモートで面談や会議を実施しています。

薬の管理等など薬剤師と連絡を取ることが多くなった。
薬剤師や訪問看護師の役割が大きくなったと感じる。

令和3年度住民向け研修会「最後まで自分らしく暮らすために
～知っておきたい在宅医療・介護のこと～」

令和3年11月20日住民向け研修会を寒川町シンコースポーツ寒川アリーナで開催しました。

【講師】

寒川病院訪問診療医長

相原 康之 医師

さむかわ訪問看護ステーション

松本 由美 看護師

【参加者感想】参加者33名

- 寒川で実際に在宅医療や訪問看護を受けていた事例の話が聞けて、在宅医療のイメージができた。
- 訪問看護の大切さがわかった。
- 本人・家族がどのような最期を迎えるか考える事が大切とわかった。
- 死の話をタブーにしないことが大切と改めて思った。
- 高齢の両親とACPについて、話をしようと思った。
- 末期がんになった時、自分でどのように気持ちを整理できるか不安に思った。
- 自分もがんになったら、在宅医療を選びたいと思った。
- 現在介護の真っ最中。納得しながら聞けた。

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは？

「自宅で最期を迎える」「延命治療は希望しない」など終末期の医療について患者や療養者の事前の話し合い



ACPは人生の最終段階の治療・医療の意思決定を支援するための家族や医療関係者らとの話し合いを指す。

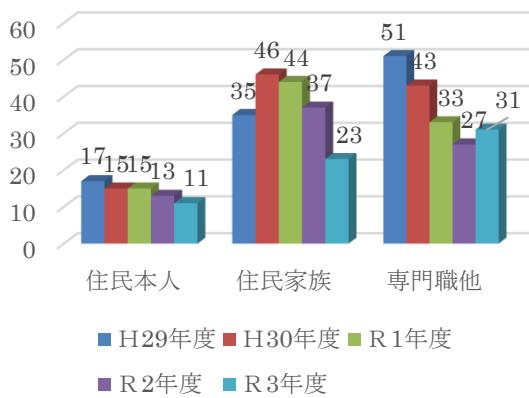
厚生労働省が2018年に改定した終末期医療方針に盛り込み、「人生会議」の愛称で普及を進める。

ACPは対話を繰り返し、自らの意思を伝えられない状態になってしまいを推定できる形を目指す。

(講師である相原康之医師の講演資料より抜粋)

令和3年度 在宅ケア相談窓口の相談状況

新規相談者経年比較（件）



令和3年4月から令和4年1月の在宅ケア相談窓口の新規相談件数は、65件でした。

(茅ヶ崎市56件、寒川町5件、その他4件)

令和3年度相談者内訳は、住民34件、専門職（地域包括支援センターや病院連携室等）31件でした。

在宅医療や介護に関するお困りごとなどありましたら、ご相談ください。

0467-38-3319

(在宅ケア相談窓口直通)

平日 8時30分～17時

令和3年度の住民向け研修会は、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、対面形式で開催することができました。多職種研修会は、対面でのグループワークを検討中に、オミクロン株の感染拡大により、オンラインでの開催となりました。

リモートを使えば、面会も会議も研修も出来ることがわかりました。来年度も状況に応じた研修会を企画しますので、ご参加をお待ちしています。